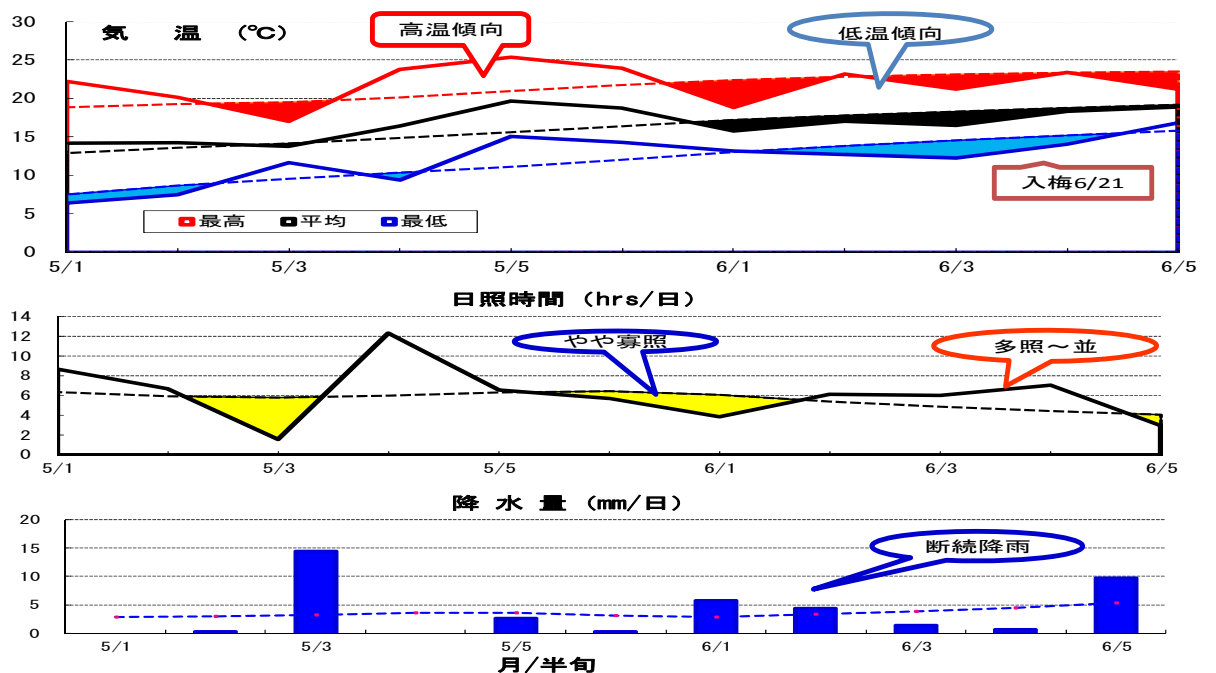


～～概ね順調でやや茎長は長め・開花始め、病害虫防除の徹底を～～

1 気象経過



注) 日照時間、降水量は1日当りの平均値で示した (実数値は10, 12, 1月6半月6倍, 11, 4月6半月は5倍、2月6半月は3倍した数値)

- ・ 6月初めから中旬にかけて、低温傾向に推移し、梅雨入りは平年より遅れ、6月21日頃で（平年6月12日で+9日）あった。その後気温は、平年並みに経過している。
- ・ 日照は、6月初めが一時寡照であった以外概ね多照傾向となっている。
- ・ 降水量は、5月～6月にかけて断続的に降雨があるが、入梅後も晴れ間が多い。

2 生育状況



- ・ 5月下旬頃～6月上旬に播種され、5月播種は、本葉3～4枚、6月播種は、初生葉～本葉1枚程度である。
- ・ 播種後、降雨にあった圃場では、土壌がしまりクラスト状になったところも見受けられる。

3 今後の管理

(1) 圃場の排水と湿害対策

- ・大豆作の約 97%が水田作であり，排水対策が最重要技術である。
- ・梅入りし，降雨が続くと，排水不良地は大豆が黄化し湿害を受ける。
- ・出芽後，湿害を受けると，根粒菌の着生阻害や生育不良，枯死する恐れがある。



★★★地表面水を排除するため，梅雨の合間に以下の排水対策を徹底する★★★

- ・明渠幅及び深さは 20～30cm 程度とし，畦畔に沿って額縁明渠を設ける。
- ・ほ場内明渠は，水口から水尻まで傾斜がない場合は間隔を 5 m 以内とする。
- ・明渠は必ず排水路と接続し，停滞水の排水を促す。

(2) 中耕培土

- ・土壌を膨軟にし根張りを良くし，通気性を改善したり，除草効果もあり，大豆作には欠かせない基本的な技術である。
- ・培土作業により，大豆の支持力が高まり，根張りとともに耐倒伏性が高まる。
- ・梅雨期間の作業だけに合間を見て適切に実施することが収量確保のポイントである。

普通栽培

- ◆第 1 回目：本葉 2～3 葉期に子葉節が隠れる程度まで
- ◆第 2 回目：本葉 6～7 葉期に初生葉が隠れる程度まで
- ※晩播栽培は，本葉 5～6 葉期に子葉節が隠れる程度

(3) 雑草防除

- ・土壌処理剤の効果は，概ね 30 日程度を目安とする。
- ・広葉雑草を対象とした茎葉処理剤は中耕培土前（大豆 3 葉期頃）が最も効果が高く，散布時期が遅れると茎葉や雑草に遮られ，効果が劣るので処理時期に留意する。（雑草葉令で 6 葉期まで）
- ・イネ科雑草に対しては，3～5 葉期ないし，3～8 葉期までに処理する。（薬剤の種類に留意）

【参考】

表－1 大豆の出芽状況（古川農業試験場）

品種名	播種期	出芽期	出芽日数	平年差
タノイ	5 月 26 日	6 月 1 日	6	(-3)
ミヤギノメ	5 月 26 日	6 月 1 日	6	(-3)

〔向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)〕

【気 温】	東北地方	20	40	40
【降 水 量】	東北地方	30	40	30
【日照時間】	東北地方	30	40	30